

## 臨床検査技師派遣による地域医療支援

～病診連携強化と地域医療の質向上を目指して①～

◎星 勇喜<sup>1)</sup>、松田 萌<sup>1)</sup>、石澤 茉美<sup>1)</sup>、小林 祥子<sup>1)</sup>、本名 拓哉<sup>1)</sup>、齋藤 麻依子<sup>1)</sup>、高田 直樹<sup>1)</sup>  
一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院<sup>1)</sup>

【はじめに】2021年10月より会津地方の病院・診療所へ医師と共に臨床検査技師を派遣する取り組み（以下チーム診療）を開始した。取り組みまでの経緯と現状を報告する。

【背景】会津地方は山間部に位置し、面積も広い。人口の約36%が65歳以上と高齢化が進んでいる。多くの地域で近くの診療所がかかりつけ医となり地域医療を支えている。専門外の患者の診察も行う必要があり、開業医の負担は大きい。また、循環器内科医、心臓血管外科医など専門的な医師は会津若松市に集中している。高齢化に伴い弁膜症が増加している事が指摘されているが、専門医を受診する事が難しい方もいるのが現状である。当院では2021年より心臓血管外科医が診療所医師のサポートおよび治療までの医療アクセス向上を目的に地域の病院・診療所への出張診療を開始した。しかし、派遣先の診療所では超音波検査を行う体制が整っていない施設が多く、医師一人で診察と検査を行うことは負担が大きかった為、チーム診療を開始する事となった。

【取り組み】チーム診療は2021年10月から開始した。当

初は1施設のみであったが、現在は4地区4施設（喜多方市、猪苗代町、只見町、会津若松市）まで拡大している。出張回数は各施設に月1回程度、訪問している。

【結果】紹介数は取り組み前の約10倍と増加した。紹介となった15例（紹介数の15%）が手術適応と診断され手術が施行された。大動脈弁置換術が7例と最も多く、次いで経カテーテル大動脈弁留置術3例、胸部大動脈置換術3例で、大動脈弁に対する治療が半数以上であった。

【考察】無症状の大動脈弁狭窄症患者を早期発見できるなど、医師と臨床検査技師派遣の活動に関して有用性が示唆された。また、診療と超音波検査をかかりつけ医で実施する事で、移動などの患者負担が軽減されたと考える。問題点としては当院も医師数が十分では無い。医師の派遣には限界があり本取り組みの今後の課題である。

【結語】医師と臨床検査技師を派遣する事で、病診連携を強化し、地域医療へ貢献する事ができた。今後も、地域医療へ臨床検査技師が参画できるように取り組んでいきたい。